女性未来塾

Women's future leadership program

（R5. 8. 10 時点）

第 20 回

2020 年１１月２６日（水）

テーマ：女性活躍と性犯罪・性暴力対策の最前線

講　師：上川　陽子　法務大臣

Web 講義形式で開催し、約 140 名の塾生が参加。上川法務大臣より、女性活躍に関して注目している指針や性犯罪・性暴力対策の強化についてご説明いただきました。また講演最終部分では、「声なき声を政策にしていく。これが政治の良さです」と強調しました。講演後は質疑応答を実施し、受講生より沢山の質問を頂戴しました。

第 20 回の様子

第２１回

2021 年１月１２日（火）

テーマ：環境が成長戦略となる時代

講　師：小泉　進次郎　環境大臣

インターネットを通じて約 150 名の塾生に参加していただきました。小泉環境大臣は、住宅や食、ファッションなど私たちの生活に身近な観点から脱炭素化に向けた具体的な取り組みを紹介しました。質疑応答後、「何か一つでも（脱炭素化に向けた）具体的な行動をしてほしい」と参加者に呼びかけました。

第２１回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第２２回

2021年2月16日（火）

テーマ：障害について～特別支援教育について＋ミニ手話講座～

講　師：今井　絵理子　女性局長代理

今井絵理子女性局長代理が、特別支援教育や特別支援学校の現状について解説。 自身の子育ての経験をもとに特別支援教育の難しさを語った上で、手話などの特別なスキルを持った 人材育成の重要性を訴えました。
また、講演の後半では「こんにちは」や「ありがとう」など日常生活で使える基本的な手話を紹介しました。

第２２回の様子

第２３回

2021 年3月１７日（水）

テーマ：誹謗中傷

講　師：お笑い芸人・タレント　スマイリーキクチ氏、国光　あやの　女性局次長

スマイリーキクチ氏は、自身がある事件の容疑者であるとインターネットの掲示板で誹謗中傷された経験を話した上で、「デジタルタトゥー」の恐ろしさを訴えました。また、SNS などで誹謗中傷されたときの対処法などを語ったほか、SNS などを通じて子供が事件に巻き込まれる恐れがあることを注意喚起しました。国光次長からは、プロバイダ責任制限法の概要など誹謗中傷された際の救済制度について解説がありました。

第２３回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第２４回

2021年4月20日（火）

テーマ：こども庁の取り組みについて

講　師：自見　はなこ　女性局次長

自見次長は、子どもに関する政策を網羅的、一元的に把握し、司令塔となっている府省庁がないこと等を現状の課題として挙げました。その解決策として、子どもの医療･保健･療育･福祉･教育を一元的に所管する『こども庁』を創設できたら、縦割り行政・多重行政、制度分断による子どもの育ちの差異がなくなり、強い権限と総合調整機能を持たせることができると説明しました。

第２４回の様子

第２５回

2021 年5月26日（水）

テーマ：新型コロナワクチン接種の加速化に向けて

講　師：河野　太郎　新型コロナウイルスワクチン接種推進担当大臣

河野大臣は、７月末までに高齢者へのワクチン接種を完了させるため、必要な新型コロナワクチンや医療従事者の確保などが課題だったと振り返りました。その上で、若い世代の感染・重症化や国産ワクチンの開発状況、副反応等の解説を行いました。講演後は、受講者から寄せられた質問（妊婦や子どもへの接種、ワクチン接種がスムーズに進んでいる自治体の例など）にひとつひとつ丁寧に答えました。

第２５回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第２６回

2021年６月23日（火）

テーマ：教育現場の変革への文部科学省の取り組み

講　師：萩生田　光一 文部科学大臣

萩生田文科大臣は持続可能な社会を生き抜くためにはこれまでの学校教育を継承しながらも、新しい教育を構築する必要があるとして「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立が重要だと指摘。「個別最適な学び」の実現に向けた具体的な取り組みとして「GIGA スクール構想」を挙げました。GIGA スクール構想を進めることで、学校授業の在り方を一方的な授業（ティーチング）から双方向（コーチング）へと転換していきたいとしました。「協働的な学び」の実現については、これまで行われてきた学校行事や学級活動の継続を前提とした上できめ細かい指導や家庭との緊密な連携ができるようになることから「少人数教育」の実現にも意欲を示しました。

第２６回の様子

第２７回

2021 年7月２８日（水）

テーマ：孤独

講　師：世耕　弘成　参議院自民党幹事長

世耕参院幹事長は、参院自民党独自の取り組みとして令和元年に立ち上げた「不安に寄り添う政治のあり方勉強会」の経緯を紹介。令和元年の参院選で全国遊説をした際、自民党の政策が国民に刺さっていないことを痛感したことから実際に困っている方々の声を聞き政策に活かしていくための勉強会を、参院幹事長に就任した直後の同年 10 月に立ち上げたと説明しました。そしてさまざまなヒアリングやアンケートを実施する中、世耕参院幹事長は困っている人ほど声をあげないということに気づかされたと強調。本当に困っている方々のために「政策をつくるだけでなく、届くようにすることが重要だ」と語りました。

第２７回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第２８回

2021年８月30日（月）

テーマ：スポーツを新たな価値創出・課題解決の手段に

講　師：朝日　健太郎 参議院議員

講師の朝日健太郎議員より、スポーツ政策の柱である「スポーツ基本法」について、1961 年に制定された「スポーツ振興法」との違いを踏まえて、解説。2011 年に同法を全面改正して成立した「スポーツ基本法」では、国家戦略としてのスポーツ立国の実現を掲げ、障害者スポーツなどの関連事業にも支援を拡充し、スポーツ振興を一層進めていくことが明記されたとしました。また、2012 年のロンドン五輪において、市民の半数が五輪を契機にボランティア意識が向上したというデータを紹介した上で今後のスポーツ政策の一環として、スポーツを通じた地域活性化の必要性を語りました。

第２８回の様子

第２９回

2021 年１１月１９日（金）

テーマ：こども庁設置に向けて、非常ベルは聴こえているか！？

講　師：馳　浩　前衆議院議員

11 月が「児童虐待防止推進月間」であることを踏まえ、党虐待等に関する特命委員会の委員長として虐待防止政策をリードしてきた前衆議院議員の馳浩氏より、「児童虐待防止法」「いじめ防止対策推進法」「教育機会確保法」「わいせつ教員対策法」などの概要を立法の経緯を含めて解説しました。

「わいせつ教員対策法」に関連して、馳氏は、親が子どもを安心して預けられるよう子どもにかかわる職業に就職する場合は、必ず犯罪証明書の提出を求める日本版 DBS の創設を訴えました。また、子どもに関する職業は専門性が高いことから、自治体の規模に合わせて適切な人材支援ができるよう、早急にこども庁を設置すべきだと改めて強調しました。

第２９回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第３０回

2021 年 12 月 20 日（月）

テーマ：「真に」子どもにやさしい国をめざして

講　師：塩崎　恭久 前衆議院議員

厚生労働大臣を務め、H28 年の児童福祉法改正に携わった経験を踏まえながら、児童養護の現状を説明し、児童福祉法成立から改正まで児童福祉法の歴史を解説。H28 年の児童福祉法改正において子どもの権利や子どもの最善の利益優先原則、家庭養育優先原則を明記したことを述べました。

さらに、里親が進んでいないなどの課題に触れたうえで、解決方法として、民間と連携しながら人材不足を解消し国家資格を創設するなど専門性を高めることが必要だと強調しました。

第３０回の様子

第３１回

2022 年 1 月 26 日（水）

テーマ：デジタル庁の取り組みについて

講　師：牧島　かれん　デジタル大臣

牧島大臣は、デジタル社会を目指すにあたって一人一人のニーズに合わせた多様な幸せを実現できる社会を目指すと述べた上で、誰一人取り残さず人にやさしいデジタル化を進めていくことの重要性を強調。その上でデジタル庁がデジタル化の司令塔として果たすべき役割などを説明しました。

また、地域の暮らしや産業・経済などをデジタル化によって変革し、大都市の利便性と地域の豊かさを融合させる「デジタル田園都市国家構想」についても解説。

さらに、デジタル化の視点から行政改革や規制改革などを進める「デジタル臨時行政調査会」の意義についても解説しました。

第３１回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第３２回

2022 年２月 22 日（火）

テーマ：沖縄の子どもの貧困

講　師：島尻　安伊子　衆議院議員

島尻衆院議員は冒頭、沖縄県の子どもの相対的貧困率が全国平均（13.5%）の約２倍にあたる 29.9%であることを示した上で沖縄の子どもの貧困は全国と比べても特に深刻な状況にあると説明。貧困から子供たちを一人でも多く救うために、島尻衆院議員が内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策担当）であった平成 28 年度に「沖縄子供の貧困緊急対策事業」を立ち上げたと当時を振り返りました。

当時の緊急対策の主な内容として、貧困に苦しむ子どもに適切な支援を行う「子供の貧困対策支援員」の配置や、日中・夜間に子どもが安心して過ごせる居場所の整備などを挙げた上で、今後も必要な支援を行っていくべきだと強調しました。

第３２回の様子

第３３回

2022 年3月２２日（火）

テーマ：ウクライナの件から学ぶべきもの

講　師：小野寺　五典　衆議院議員

小野寺衆院議員は、小野寺衆院議員はロシアのウクライナ侵攻は明白な国際法違反だと強調し、ロシアへの経済制裁の重要性について指摘。また、台湾有事などを念頭に、ロシアのウクライナ侵攻は対岸の火事ではないと警鐘を鳴らした上で、わが国の抑止力強化に向けて、米国やオーストラリアなど法の支配や民主主義といった価値観を共有する国々との関係を強化することや、自衛力を高めることが重要だと述べました。

さらに、岸田文雄総理が所信表明演説で「敵基地攻撃能力」の保有に言及したことを踏まえ、「敵基地攻撃能力」の意義についても説明しました。

第３３回の様子

女性未来塾
Women's future leadership program

第３４回

2022 年4月 27 日（水）
テーマ：岸田内閣の目指すもの
講　師：内閣官房副長官　木原誠二衆議院議員
木原副長官は、意識的に取り組まなければ平和を構築し維持することは難しいと述べた上で、複雑化する安全保障環境に対応するため防衛力の強化や日米同盟の深化が重要だと強調。ロシアによるウクライナ侵攻を受けて国連改革の必要性についても指摘しました。
さらに、「人間の安全保障」についても言及。「新しい資本主義」については、一人一人の幸せを実現する経済の在り方だと説明した上で、成長が循環していくために、企業が生み出した利益を公平に分配していくことが重要だとしました。岸田内閣の政治のあり方については「国民の声を聞く政治」とした上で、自民党内で進みつつある「自民党改革」について解説しました。

第３４回の様子

第３５回

2022 年5月３１日（火）
テーマ：菅内閣の取り組みとこれからの重要課題
講　師：菅義偉前内閣総理大臣
菅前総理は冒頭、国会議員になるまでの経緯を振り返った上で「国民の皆さんが何を考えているのか、国民の目線になって自分が肌で感じたことを政策に反映することが大切だ」と自らの信念を語りました。
その上で新型コロナのワクチン接種や携帯電話料金の引き下げ、不妊治療、防災減災対策、ふるさと納税、デジタル庁の設置、農林水産品の海外輸出など菅政権で取り組んだ主な政策について、関係省庁との具体的なやり取りなどを紹介しながら一つずつ解説。また菅前総理は、政権与党の役割について「国民から見て当たり前の政治をやる責任がある」と強調しました。

第３５回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第３６回

2022 年 10 月 27 日（水）

テーマ：インフレ、円安と自民党の政治

講　師：小田原　潔　衆議院議員

小田原衆院議員は、為替市場で円安が続いていることについて市場からの産業構造を変えていくべきだというメッセージを述べた上で、円安の行方については、いかにわが国のサービスや商品で世界中を魅了していくかがカギだと強調しました。講演の後半では、自身の選挙経験を通じて得た教訓などを、参加者に紹介。

有権者に誠意を尽くし、感謝の気持ちを形にすることが、いざというときに自分の道を開いてくれると語りました。

第３６回の様子

第３７回

2022 年１１月３０日（水）

テーマ：児童虐待防止

講　師：宮路　拓馬　女性局長代理

宮路代理は冒頭、こども家庭庁の役割について説明した後、児童虐待防止政策は、教育や警察、福祉などさまざまな政策分野が関係することから、縦割りの壁があり、都道府県、市区町村によっても状況が異なることが多いため、自治体間の横の関係にも課題があると指摘しました。その上でこども家庭庁の意義は、これまでの縦割り・横割り行政を打破する司令塔的な役割にあると述べ、その重要性について改めて強調しました。

また、改正児童福祉法など関連法についても解説し、虐待を受けている児童を保護者から避難させる「一時保護」については、これまで児童相談所と保護者が一時保護の判断を巡って対立することが多かったとした上で、一時保護の適正性の確保や手続きの透明性を確保するため、裁判官が一時保護の判断に介入する司法審査が導入されることになったと説明しました。

第３７回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第３８回

2023年１月24日（火）

テーマ：日本のあるべき外交・安全保障

講　師：松川　るい　女性局長

松川女性局長は、自身の外交官としてのキャリアを簡単に振り返った上で、わが国の外交について解説。外交を、身近な人間関係に例えた上で、外交も仲間づくりが極めて重要だと説明しました。一方で、国家間の地理的関係が変わらない点や国家間の歴史が永遠に積み重なっていく点が人間関係と大きく異なると指摘し、偶発的な衝突が起きないためにも、難しい相手ほど平時からの意思疎通が不可欠だと強調しました。また、年末に閣議決定した安保関連３文書の内容についても説明しました。

第３８回の様子

第３９回

2023年３月８日（水）

テーマ：女性の健康（片頭痛などの見えない課題）

講　師：日本イーライリリー株式会社　古城大亮氏、株式会社日本総合研究所　田川絢子氏

古城氏は、女性に特にみられる疾患に対する医薬品の有効性について述べた上で、女性の健康に対する医薬品の果たす役割は大きいと強調しました。女性の健康増進に資する製薬イノベーションの効果を最大化させるためには、医薬品に対する正しい理解を促進していくとともに、研究開発促進など環境整備が必要だと訴えました。

田川氏は、人生 100 年時代を迎え一人一人の労働人生が長くなっていることに言及した上で、パフォーマンスを発揮し続けるためには、健康支援が不可欠だと強調。これまでの、生活習慣病予防など主に男性を対象とした健康対策から、性差を加味した政策立案への転換が必要だと訴えました。

また、月経随伴症状や子宮内膜症など女性特有の疾患の多くが「見過ごされている健康課題」だと指摘し、働く世代の女性の生産性を向上させるためにも、社会全体がこうした健康課題について正しく理解し、十分な対策を講じる努力が必要だと問題提起しました。

第３９回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第４０回

2023 年4月１２日（水）

テーマ：地方議員・議会の役割

講　師：高橋　はるみ　女性局次長、石橋　林太郎　女性局次長、とかしきなおみ　元衆院議員

高橋次長は議会と知事は車の両輪だとした上で、地方議員は選挙区の地域住民のため、知事はそれぞれの都道府県のために仕事をしていることから、党派が異なっても地域の発展に向けて同じ目的を持っているのが特徴だと強調。石橋次長は知事の政策を支えることが県議の役割だとしつつ、恭順であってはならず、知事との関係を適切に保っていくことが選挙区の地域住民の要望の実現を図っていく上で大切な心構えだったと述べました。とかしき元衆院議員は国（中央）と地方の統治機構の違いについて国（中央）は、国会の議席の過半数を占める政党が内閣を組織する「議院内閣制」が採用されているのに対して、地方では、首長と議会議員がそれぞれ選挙によって選出される「二元代表制」が採られていると解説。その上で、地方では住民の生活に密着した身近な事案を取り扱うため、国の政治ほど政党間の違いがあまり出ないことが特徴だと解説しました。

第４０回の様子

第４１回

2023 年5月１７日（水）

テーマ：国際教育協力

講　師：鈴木　憲和　青年局長

鈴木青年局長はわが国のこれまでの ODA はインフラ分野が中心だったと説明した後、「わが国が世界にプレゼンスを示していくには、ハードだけでなく教育などソフトな分野への支援も強化していくべきだ」と強調。エチオピアを訪れた際、現地の住民から「教育を受けていれば戦闘ではなく話し合いで解決できたかもしれない」という話を聞き、教育の重要性を再認識したといい、わが国も他の G7 諸国と同様に ECW(Education Cannot Wait:「教育を後回しにできない基金」)に拠出をし、積極的に教育支援に関与していくべきという問題意識が生じたと語りました。また、エチオピアで学校給食として提供されているお米がインディカ米であることに触れ、日本国内の余剰米を支援の一環として輸出することがわが国のビジビリティを上げるのではないかと問題提起しました。

第４１回の様子

女性未来塾

Women's future leadership program

第４２回

2023 年6月２２日（木）

テーマ：熱中症対策

講　師：堀内　詔子　女性局次長

堀内次長は地球温暖化により酷暑日が増加していることに比例して、熱中症死亡者も年々増加し続けていると指摘。2020 年には自然災害による死亡者が 119 人なのに対して、熱中症による死亡者は 1528 人と 10 倍以上多く、深刻な問題だとしました。その上で「早め早めに涼しくして水分をとって休息をとることが大事」だとして、適切に冷房を使用することの重要性を強調しました。また、自身が事務局長を務める「自民党熱中症対策推進議員連盟」が成立させた熱中症対策法に関する説明もありました。

第４２回の様子

第４３回

2023 年8月3日（木）

テーマ：わが国の将来展望と女性の政治参画

講　師：茂木　敏充　幹事長

茂木幹事長は、「党改革」を、幹事長に就任して以来の最重要課題だと述べた上で、ガバナンスコードやリバースメンター制度の導入の目的や経緯について説明。

また、誰もが個性を発揮し活躍できる多様で包摂的な社会の実現には、女性活躍が不可欠だと述べ、先々月取りまとめた「女性議員の育成・登用に関する基本計画」に基づき、国政における女性議員比率 30%を実現していくと力強く語りました。

その上で、その高い目標を実現するためには、「相当踏み込んだ施策と政治的意志が必要だ」と強調。

女性候補者への支援金制度の創設やハラスメント対策の窓口開設など、これまでとはレベルの異なる支援策を通じて女性候補者を継続的にサポートしていくと決意を新たにしました。

第４３回の様子